

白鷹町文化交流センター基本計画書

平成 18 年 6 月

山形県白鷹町

目次

1. 計画条件の整理.....	1
(1) 背景.....	1
(2) 文化交流センターがめざすもの	1
① 視点その1 新しいまちづくりの拠点.....	1
② 視点その2 未来への投資、文化と交流.....	2
③ 視点その3 人づくりのシンボル.....	2
(3) 計画条件	2
① 計画地の位置	2
② 建設時期	2
(4) 文化交流センター位置図.....	3
2. 計画方針の設定.....	4
(1) 基本的考え方	4
① 計画の目標、テーマ.....	4
② 計画の特徴	4
(2) 施設の方向づけ.....	5
① 施設の基本コンセプト	5
② 施設の配置条件.....	5
③ 施設の条件	5
3. 施設整備計画	6
(1) 施設の内容.....	6
(2) 施設機能の基本方針.....	7
① 多目的交流機能.....	7
② 文化伝承発信機能.....	7
③ ギャラリー機能	8
④ ロビー機能	8
⑤ 屋外交流広場	8
(3) 既存施設との関係.....	9
(4) 施設の構造と意匠の基本方針	9
4. 施設の管理運営計画	10
(1) 運営計画の視点	10
① 目標の設定	10
② 事業の収支	10
③ 実施にあたって	10
④ 事業イメージ	10
(2) 施設維持管理と運営経費の算定(概算).....	12
(3) 利用計画	12
5. イメージスケッチ.....	13

1. 計画条件の整理

(1) 背景

現在の視点から未来を展望するとき、高齢社会そして人口減少社会という、新たな社会構造の到来を認識することができる。白鷹町の未来には、町に内在する資源を活用し、町民一人ひとりのエネルギーを引き出し、町民が一つになることができる「未来へのよりどころ」が必要とされている。

今のこの時期にこそ、「具体的な夢」を目標にかかげ、それを実現するために町民の結集がまちづくりに求められているのである。

まちづくりの基本は、この町に住むことによる町民一人ひとりの幸せと豊かさの中にある。過去に感謝し、現在を生き、この営みを継続する時間の積み重ねこそ、未来に託すまちづくりの原動力となるものである。

(2) 文化交流センターがめざすもの

白鷹町文化交流センターは、「文化・交流・人づくり」によるまちづくりの拠点とすることをめざすものである。

「文化」とは、町民の文化力を高め、他地域の人々との交流を深め、「白鷹の新しい力・持続的な力・元気な力」を創ることである。

「交流」とは、人的・文化的・経済的交流を活発にし、「価値の結集・吸収・発信力」を高め、活力あるまちを創ることである。

「人づくり」とは、まちづくりを実践することにより、町民の心の豊かさを高めながら、次世代を育む力と町民力が向上することである。

また、それぞれが互いに関連し、融合し、相乗効果を高めるような仕組みをつくるものである。

① 視点その1 新しいまちづくりの拠点

白鷹町は、中央を流れる最上川によって文化が栄え、町が繁栄してきた歴史がある。この事業は、地域の資源に光をあて、総合的な地域再生の視点から地域活性化を図るものである。視線の先には、太平洋と日本海を結ぶ中間地点の町として、人と物の流通に新たな価値を付加する、最上川に架ける新たな橋の実現がある。

白鷹町文化交流センターは、歴史的たたずまいを継承し、高齢化時代の定住力とまちづくりを融合させながら、新しい雇用と産業基盤を創出し、安心安全な福祉ネットワークを展開する新しいまちづくりの拠点である。

また、若者定住をめざす住環境が融合し、子育てに良好な町並みを形成する拠点でもある。

② 視点その2 未来への投資、文化と交流

白鷹町文化交流センターは、人間としての豊かな感性を醸成する「未来への投資」である。感動を創り上げ、未来へ世代をつなぐ文化創造の拠点である。そのテーマは、出会いと体験によって感性を高める空間と、触れ合いと交流によって意欲を育む空間の調和である。

文化と交流の創造空間は、楽しみ、喜び、感動する生命の発露として、新たな自己発見の空間として、次代を担う子どもたちに未来を語る場である。そのことが、地域文化を創造する人づくりの出会いの場となり、地域の自信と誇りにつながるものと確信する。

③ 視点その3 人づくりのシンボル

男性と女性、若者と高齢者が地域の力としてこの空間を活かす実践過程こそ、男女共同参画社会の創造を実現することである。この新しい空間におけるまちづくりと人づくりのエネルギーは、まちの未来への求心力を高め、地域の人々のまとまりとなり、交流を広げるものである。

四季の豊かな町並み景観の中で、安心と安全な定住環境をつくり、交流を深めることができる空間。個性を尊重し、心の中に調和を形づくり、交流の拠り所となる空間。子どもの心を豊かに育み、大人も楽しむことができる、感動を共有する空間とする。

(3) 計画条件

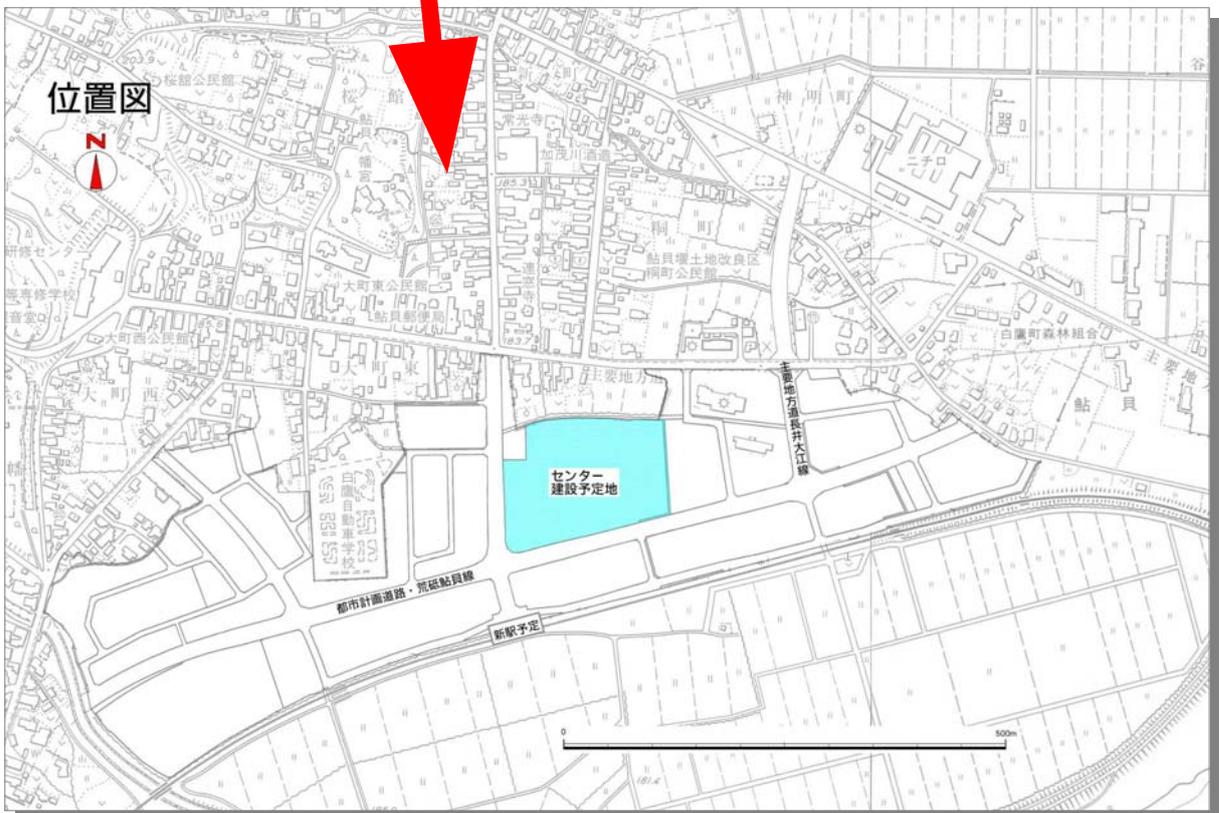
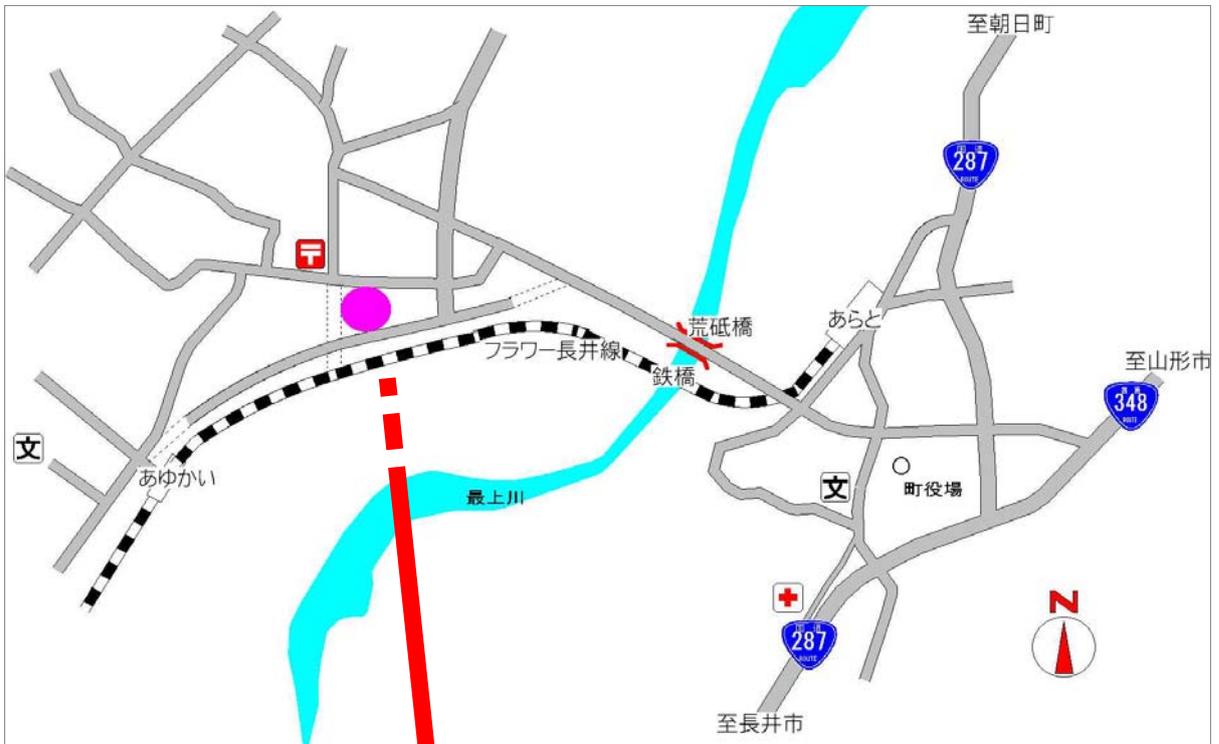
① 計画地の位置

本施設は、白鷹町の未来へ向けたまちづくりを先導する役割を担う鮎貝まちづくり事業の中核として位置づけ、鮎貝土地区画整理事業地内に計画する。

② 建設時期

平成18年度～21年度

(4) 文化交流センター位置図



2. 計画方針の設定

(1) 基本的考え方

① 計画の目標、テーマ

1. 計画の目標

白鷹町文化交流センターは、多目的交流・ギャラリー・文化伝承発信・屋外交流の四つの機能を融合し、新たな出会いと感動と交流を創り出し、新たな文化が生まれ育つための醸成器であり、未来への投資である。

2. 計画のテーマ

『 出会い 体感 未来 』

② 計画の特徴

1. 文化を体感することにより、新たな行動意欲を生む空間であること。
 - ・町民の創造性を高め、発表する機会が提供できること。
 - ・文化の芽生えや成長が体験できる空間であること。
 - ・施設をよりどころとして、新たな感性が生まれ育つ空間であること。
 - ・白鷹文化を認識し、伝承と情報発信を図ることができること。
2. 住民間のコミュニケーションを深めるものであること。
 - ・常に人々が集まる、和やかなふれあい空間であること。
 - ・気楽にアクセスができ、立ち寄りやすいこと。
 - ・住民の主体性や地域コミュニティ能力を育むものであること。
 - ・運営を住民組織が担当し、住民に開かれた形態を目指すものであること。
3. まちづくりと人づくりのシンボルとして、未来への変化を感じさせるもの。
 - ・人の動きや姿が見え、ぬくもりや暖かさを感じさせるもの。
 - ・町の変化の方向を予感させ、継続的な発展性を感じさせるもの。
 - ・心理的にも外観的にも人々の印象に残る、町のランドマーク*になるもの。

* ランドマーク…地域の目印や象徴となる建築物

4. 町に、良好な風景を生み出すものであること。
 - ・最上川をはさむ町並み風景を生かし、その特徴を高めるもの。
 - ・フラワー長井線の鉄橋のある風景を生かし、その特徴を高めるもの。
 - ・特徴ある町並みとして、新たな風景と魅力的な景観を形成すること。
5. 情報発信により、町内外の人々との触れ合う機会を増やすことができるもの。
 - ・町や地域の情報発信力と情報吸収力を高めるもの。
 - ・町に来た人に、もう一度訪れたい気持ちを起こさせるもの。
 - ・継続して、新しい情報が生み出されていること。

(2) 施設の方向づけ

① 施設の基本コンセプト

音に配慮した「多目的交流空間」と、美に配慮した「ギャラリー空間」を、一体的に結びつける役割を持つのが「文化伝承発信空間」である。さらに、「屋外交流広場」が施設と一体となり、四つの機能が織り成すことによる、新たな交流を生み出す施設。

② 施設の配置条件

1. 施設と屋外交流広場が一体となった活用ができること。
2. 鮎貝まちづくり事業のコンセプトと調和する配置と景観を形成すること。
3. 施設の周辺には、屋外交流広場とともに駐車場を広く確保する。
4. フラワー長井線の新駅との動線を考慮すること。

③ 施設の条件

1. バリアフリー*1を徹底し、平屋建てとする。
2. ぬくもりのある、木質を主体としたもの。
3. 地域の気候、特に雪を考慮したもの。
4. 省エネルギー、省資源に配慮したもの。
5. 維持管理費の軽減に配慮したもの。
6. ユニバーサル・デザイン*2の考えに立ち、安全で使いやすいもの。
7. 耐震性能に優れ、災害時の一時避難の拠点になるもの。

*1 バリアフリー…段差や仕切りをなくすなど高齢者や障害者に配慮すること。

*2 ユニバーサル・デザイン…いつでも、どこでも、だれでも、すべての人が使いやすいように、設計段階からデザインすること。

3. 施設整備計画

本施設の規模や具体的な内容を計画するにあたっては、運営検討委員会、各種団体など住民の意見をできるだけ尊重し、総事業費の範囲内で文化交流拠点施設にふさわしい施設整備を計画する。

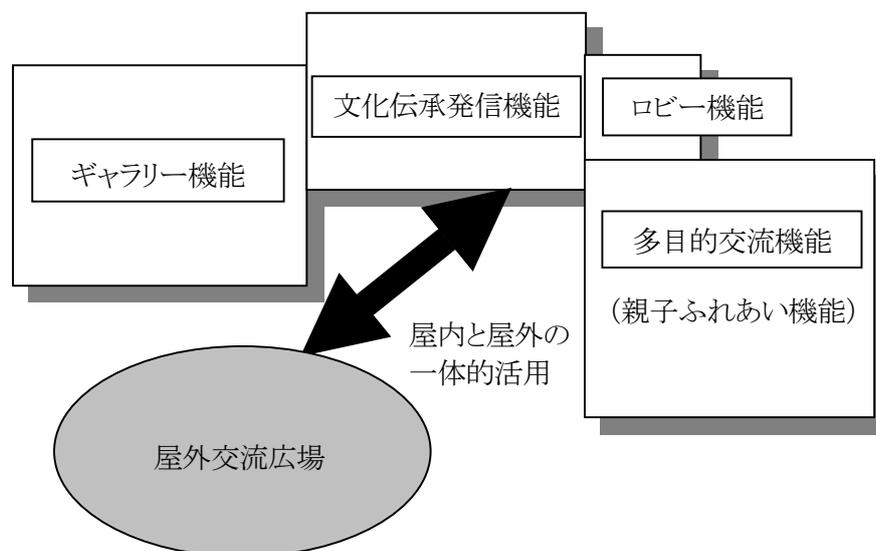
(1) 施設の内容

- ・木造平屋建て(一部 R.C造*) 延べ床面積 1,800~1,900 m²
- ・敷地面積 23,346 m²
- ・施設整備総事業費 7億4千万円~8億4千万円

	施設空間利用イメージ	規模(m ²)
ロビー機能	出会いと感動を予感させる開放的な空間	150
多目的交流機能 (音楽ホール)	観て、聴いて、歌い、語らい、音による感性を高めあう空間(親子ふれあい機能も併せ持つ)	550
文化伝承発信機能	先人達が築き上げた文化を継承し、世代を超えた交流による文化情報発信空間 (創作活動、講習などの開催)	250
ギャラリー機能	観ること、感じることによる美への感性空間 (梅津五郎画伯の美術展示、町民ギャラリー)	300
事務機能・共用スペース		550
計		1,800
屋外交流広場	屋内と屋外の一体的活用を重視し地域の人々が集い、ふれあい、憩えるひろば。	

※ 1,800 m²を目途としているが、基本設計とともに詳細を検討するため、延べ面積を 1,800 ~1,900 m²の間に設定する。

全体イメージ



* R.C造…鉄筋コンクリート造

(2) 施設機能の基本方針

本施設は、鮎貝まちづくり事業との連携を図り、中核的な拠点施設ととらえ、誰もが立ち寄りたくなる町民に開かれた空間構成を目指す。「文化・交流・人づくり」が高まる機能を備え新たな文化が生まれ育つインキュベーター*1のような空間とする。

ユニバーサル・デザインを基本とし、シックハウス対策*2等室内環境にも配慮する。施設の配置計画としては、多目的交流ホールとギャラリーとは使用目的と用途上相反するものであるため、独立した空間とし、中間的な位置に文化伝承発信機能を配し、両施設を一体的に結びつけるものとする。

以下にそれぞれの機能の基本的な考え方を示す。

① 多目的交流機能

音楽・演劇(観ること、聴くこと、発表すること)等の音による感性空間とする。また、子供のためのコンサート、遊びを通じて親子ふれあい機能を併せ持つものとする。

- ・残響時間の設定には、目的が多岐に渡っているため難しい面もあるが、あくまでも室内楽に合わせて設定をすることが望ましいと考える。
- ・空間を構成する室内気積形状、又、材料素材には特に配慮し音響効果の優れたものとする。
- ・ステージ、客席は固定せず、移動ステージ、折りたたみ式イスを考案し、用途に合わせて柔軟な対応ができるものとする。床は、平面にし自然光が十分取り入れられる空間とする。

② 文化伝承発信機能

白鷹文化を伝承するための、さまざまな展示、創作活動、交流活動に対応し、新たな情報集積と発信ができる機能を持つものとする。

- ・共同創作活動、講習等の開催により活動の広がりが展開できるにぎわい創出空間とする。
- ・文化を受け継ぎ発信するには、まず、学ぶことから始まる。最も中心となるスペースは、作業しながら意見交換のできるアトリエである。
- ・子供達の居場所
子連れでの参加が予想され、託児所、子供の遊び場所の提供が必要となる。

・歴史資料の展示

白鷹町の持つ歴史的な文化遺産、資料の展示は子供たちの郷土愛を育むものとして重要である。歴史資料展示も加えたい機能の一つである。

*1 インキュベーター…本来は卵をかえず孵卵器や保育器の意味だが、本編では育成する、支援するという意味で使用している

*2 シックハウス対策…建材などに使用された化学物質によるといわれる不快な症状を起さないように、材料、塗料、工法などに配慮すること

③ ギャラリー機能

芸術に対する感性と創作意欲を高める教育効果、将来の人間形成のきっかけづくりとなる機能を持つものとする。

- ・郷土が生んだ梅津五郎画伯を顕彰し、絵画の常設展示と油彩画 121 点の収蔵庫を整備する。
- ・町内外における創作活動の発表の場として、町民ギャラリーの機能も併せもつものとする。

④ ロビー機能

出会いと感動を予感させ、白鷹町の文化への入り口となる空間とする。

- ・だれもが入りやすく、開放的な空間とする。
- ・白鷹町を案内する機能を持ち、情報の提供を行う。
- ・展示空間として活用できるものとする。
- ・喫茶コーナーを設けるなど、ゆったりとした時間を過ごす休憩施設の機能も計画される必要がある。

⑤ 屋外交流広場

本施設の屋外施設としてセンター施設本体のほか、アプローチ(導入路)、駐車場、芝生広場、屋外ステージ等を計画する。建物の内と外、一体感のある調和のとれた空間づくりが望まれる。

屋外交流広場の整備にあたっては、町民参加を考慮するものとする。

○アプローチと駐車場

- ・フラワー長井線の新駅と北に伸びる(仮)中央通りからスムーズに誘導されるよう計画する。
- ・駐車場は施設規模から見て、150 台程度の広々としたスペースを確保する。

○交流広場

- ・地域の人々が家族で楽しみ、安心して子供たちと遊ぶことのできる広場として整備する。
- ・多世代の野外活動、交流の場として芝生広場の整備
- ・木製デッキ、ベンチ等を適度に配置し、樹木による木陰を演出、ゆったりとしたくつろぎの広場とする。
- ・大自然からの恵みである流れを生かし、水辺空間も創出する。
- ・敷地は平坦地であるので一部盛土をして起伏のある丘を設け、景観に変化をつける工夫が望まれる。
- ・広場と調和した屋外トイレを設置する。
- ・災害発生時の緊急避難場所となり得るものとする。そのため、自然エネルギーによる街路

灯も設置する。

(3) 既存施設との関係

本施設は地域のステーション(拠り所)として新たな人の流れをつくり出す役割を果たすものである。この施設を核として芸術に触れ親しみ感性が豊かに“卵がかえる”、そんな文化の産声が聞こえる空間づくりを目指し整備するものである。

町内の他の施設を利用してできる機能や他の施設を利用して行った方が良い活動とは区別する空間とする。特に中央公民館については、生涯学習振興の観点から機能を整理するとともに、既存施設との連携・利用について、積極的な相互補完を推進する。

(4) 施設の構造と意匠の基本方針

- ・文化交流センター施設の外観イメージは、白鷹町そして鮎貝の歴史と文化の香り高い美しい風土、豊かな自然環境を生かし、地域にとけ込んで調和のとれた外観を構築する。未来志向の近代感覚の中にも温もりのある「和」のイメージを表現したい。“町づくりは地産地消から”の観点から地元産の杉材を生かした木質感のあふれる内外観の構成が考えられる。構造的には小屋組を木造大断面の準耐火構造、壁をRC造として計画するのがベターと考える。十分な地盤調査を行い、耐震強度にも十分配慮した基礎構造を計画する必要がある。
- ・設備面では環境に配慮した自然エネルギーの利活用、次世代省エネ基準にあったものとし、維持管理費の軽減に配慮する。採光面においては、やわらかな自然光が館内にふり注ぐイメージとする。
- ・克雪対策

建設地における積雪荷重条件を考慮し、十分耐え得る構造とするのはもちろんであるが、屋根の雪対策、敷地全体の克雪、利雪対策を考慮し、円滑な雪処理が行える様、計画する必要がある。

4. 施設の管理運営計画

(1) 運営計画の視点

「文化・交流・人づくり」の理念に基づき、地域文化、芸術文化を通じ、町内外の人々の交流の場となること。

① 目標の設定

- ・長期及び年度ごとに目標を設定し、事業実績の検証を行うものとする。

② 事業の収支

- ・年間の収支バランスに配慮した事業計画、プログラムとする。
- ・採算を得にくい事業については、共催事業とするか、国、県、団体等の助成金の導入を積極的に図る。
- ・経営努力が事業に反映できるよう、利用料金制、入場料金などのシステムについて検討する。

③ 実施にあたって

- ・町民企画委員やボランティアスタッフ、各種団体等と連携して、アイデアや人脈、ノウハウなどを結集して事業を企画・運営する。
- ・年間スケジュールを立てて、早い段階から事業を周知する。
- ・人材の育成に積極的に取り組み、スタッフの企画力、運営力の向上とノウハウの蓄積を図る。
- ・できる限り、出演者、出品者、実演者とスタッフの交流を図り、興味を深めるとともに、新たなつながりの構築に努める。
- ・メディア等に積極的に情報を提供し、話題づくりと情報の発信を行う。
- ・大学や高校、小中学校とも積極的に連携を図る。

④ 事業イメージ

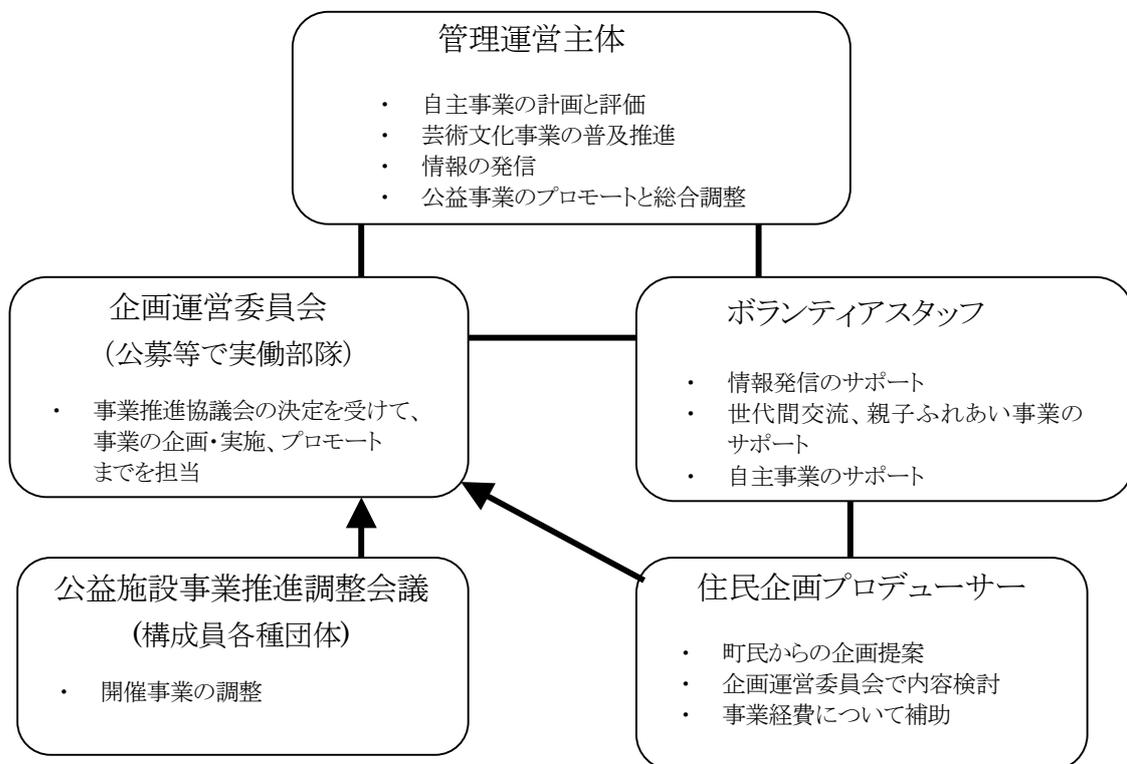
- ・独自の美術コンクールを開催する。
- ・白鷹町在住、出身の作家や演奏家、先人、白鷹文化を紹介する。展示と講演会、共同研究活動などを併行開催し、総合的に紹介、発信する。
- ・子供たちの優れた作品を展示する。落書き大会や子供のための造形教室、演奏教室など子供たちが楽しんで参加できる企画も行う。
- ・絵の見方の解説や描き方教室を行い、関心を持ってもらうと共に、町民の文化力を高める。
- ・多目的交流空間は、音にこだわる空間としつつも、一部の壁を開け放つことにより、屋外交

流広場とも連携して、コンサートや演劇、親子で楽しむ事業などを行う。

- ・町内や町外の施設とも連携し、小劇団や楽団の練習、発表の場として、また町民も共に参加する場として、「育てる」可能性を秘めた施設とする。
- ・10年、20年と長い時間をかけて育てていく施設にする。それが次世代や未来の白鷹町のための投資となる。

運営組織イメージ

当初は行政が関わり、経常的に住民組織主体の運営を目指す



(2) 施設維持管理と運営経費の算定(概算)

維持管理費用については、多様な角度から省エネルギーに配慮し、施設構造、機器等の検討を十分に行い計画されるべきである。

年間維持管理費の目安として、概ね 1,400 万円前後と考えている。

〈維持管理費〉

項目	費用の目安 (千円)	摘要
管理人賃金	3,000	管理人、臨時職員
需要費	6,600	消耗品、燃料費、光熱水費、修繕費
委託料	3,300	燃料タンク清掃委託、消防設備点検、電気設備管理、冷暖房設備点検、警備委託、給排水衛生設備点検、自動ドア点検、舞台照明機器点検、音響設備点検、外構管理委託、除雪委託、清掃委託
役務費	500	印刷機リース、上下水道料
使用料	600	
計	14,000	

〈運営費〉 年間 1,140 万円前後を目安とする。

項目	費用の目安 (千円)	摘要
人件費	6,400	施設長他 2 名
運営費	5,000	
計	11,400	

(3) 利用計画

文化、交流、人づくりを踏まえ、町内外の大人から子供まで交流の促進を図るための魅力的な企画運営を推進する。年間利用者数は、32,300 人と想定する。

施設機能	利用人数 (人)	事業内容
文化伝承発信機能	5,000	情報コーナー、案内、創作物販売、ロビー利用
多目的交流機能	14,300	演奏会、親子ふれあい、伝統文化、講演会等
ギャラリー機能	5,000	ギャラリー展示鑑賞、利用
新規イベント・連携	3,000	自主事業、イベント連携事業、交流事業
屋外交流広場	5,000	自主利用、イベントの開催
計	32,300	

5. イメージスケッチ

